

2019年度環境経営学会研究報告大会/第19回定期総会プログラム

「気候変動問題の動向と今後の展望」

会場：日本大学商学部 砧キャンパス

5月25日（土）【第19回定期総会】・【一般公開シンポジウム】（3号館講堂）

【シンポジウム】

【懇親会】

12:30～15:10（受付：12:00～12:30）

15:20～17:20

17:20～

<p>第1会場 (2201)</p>	<p>【第19回定期総会】 12:30～13:00 会長・事務局長・監事・環境経営学会会員</p> <p>◆ ◆ ◆</p> <p>【一般公開シンポジウム】（入場無料） テーマ：「脱炭素社会実現のための長期戦略はどうあるべきか？」 司会：花田 眞理子 <開会挨拶> 13:10～13:20 挨拶：会長 後藤 敏彦 挨拶：実行委員長 村井 秀樹 <特別顧問挨拶> 13:20～13:50（30分） 山本 良一 環境経営学会特別顧問（元会長） 「自治体の気候非常事態宣言や青少年の気候ストライキで世界の気候政策は変わるか」</p>	<p>SA1 シェアリングエコノミー研究会 「シェアリングエコノミーがもたらす世界」 チェア：岡本 享二 発表者：吉橋 正浩、森田 裕行、浜野 隆行</p>	<p>懇親会</p>
<p>第2会場 (2202)</p>	<p><基調講演> 13:50～15:10（80分） 13:50～14:20 「企業価値を高める環境データの開示」 CDP シニアマネージャー 山口 健一郎氏 14:20～14:50 「キリンにおける長期的な気候変動戦略」 キリンホールディングス(株) 執行役員CSV戦略部長 野村 隆治氏 14:50～15:10 質疑応答・討議（モデレーター：後藤 敏彦）</p>	<p>SA2 統合思考と長期的価値創造に関する 研究委員会 「長期目標を掲げる企業における統合思考」 チェア：村井 秀樹 発表者：飯塚 優子氏、後藤 大介、伊藤 由宣、 竹原 正篤、山吹 善彦</p>	<p>（日本大学商学部砧 キャンパス1階 アゼリア食堂）</p>

5月26日（日）

【萌芽研究報告・個別研究報告・事例報告】（発表15分、質疑15分）

【シンポジウム】

【表彰式】

9:30～12:00

13:00～15:00

15:10～16:40

16:50～17:30

第1会場 (2201) 萌芽研究 セッション (座長 宮崎(正))	発表者	ID	発表タイトル	討論者	昼食 12:00 ～ 13:00 (学生食堂は CLOSE)	SB1 サプライチェーンマネジメント研究委員会 「新たな時代の戦略的サプライチェーン管理の あり方～SDGsおよび企業戦略の視点から」 チェア：宮崎 正浩 発表者：岡本 享二、九里 徳泰、桑原 崇氏、 藤森 大祐、初井 まり、	SB3 経営診断推進委員会 「ESG/SDGs時代のビジネス機会の創出とは」 チェア：鈴木 道彦 発表者：岡本 享二、菊池 武晴、衣川 益弘、 和田 康氏	表彰式 「学会賞」 「研究報告優秀賞」
	ZHONG XIAOWEN※1	H1	企業の環境活動が消費者の認知度と与える影響について ～飲料業界による環境関連情報の伝達を対象として～	竹原				
	呂 冠宇※1	H2	Has FDI expanded air pollution in China?					
	九里 徳泰	H3	アドバンスド・レジリエンス・シティへの防災意識の普及啓発と人材育成	宮崎(正)				
	香坂 玲	H4	愛知目標・SDGsにおける指標間の関係性と民間参画推進に向けた科学・政策対話、学術研究の統合的解析					
第2会場 (2202) 個別研究・事例 セッション (座長 村井・花田)	発表者	ID	発表タイトル	討論者				
	小針 秀夫※2	K1	デザインによる認知症対策とその効果	村井				
	花田 眞理子	K2	環境コミュニケーション・ツールとしての持続可能性ラベルの認知度について ～大学生アンケート調査より～					
	村井 秀樹	K3	バイオマス熱電併給事業の公共性と経済性～下川町の事例から社会的合意性のあり方を考える～	鶴田				
	大河 喜彦	K4	不祥事は何故なくならないのか					
	山本 恵嗣	J1	中小企業での障害者雇用の現状と成功事例					
第3会場 (2203) 個別研究・事例 セッション (座長 長谷川)	発表者	ID	発表タイトル	討論者				
	伊藤 由宣	K5	企業のESGリスク開示の現状と可視化手法に関する研究					
	井上 尚之	K6	SDGsとISO26000の関係～大阪いずみ生協を例として～					
	小田 利広	K7	長野県飯田市における「地域ぐるみ環境経営研究会」にみる地域創成	長谷川				
	川村 雅彦	K8	人類の意思としての『サステナビリティ革命』					
	黒澤 正一	J2	CSRアクティブラーニングの実践と共創					

表彰対象者：※1:35歳以下、※2:社会人院生 ID：H:萌芽研究報告、K:個別研究報告、J:事例報告